

中学校区におけるめざす子ども像 失敗を恐れずに自分で考えて決断できる子～自分からチャレンジ！そして未来を切り拓く～

令和7年度 重点目標
学校教育目標の「自ららしく輝く子ども」を「自ら問題を発見し、仲間とともに解決しようとする主体的な子ども」と捉え、誰一人取り残さない安心・安全で楽しい学校、子どものよさを伸ばす教育を行うため「『自分で学びを進める』と『互いを理解する』『自分からチャレンジする』」を本年度も重点目標とする。そのため、教職員が子ども理解に努め、子どもが自ら学びをつくる授業の実現をめざし、問題解決的な授業を行うとともに、お互いを理解し支え合う仲間づくりに取り組む。学校全体で課題解決の実現に向かうため、教職員もお互いを知り、学年、各分掌、キャリア等で協働できる職場づくりを行う。自ら学び、発信し、お互いが学び合う人が育つ好循環をつくる。

学びの現状・
令和6年度全国学力・学習状況調査では、国語でも算数でもどちらもその教科の授業は好きですかの質問で「好き」と答えた児童は全国を下回り「大切」と答えた児童は上回る。これらより国語・算数ともに大切だと思っているが、「好き」のデータが低いことから苦手意識をもっている児童が多いことが考えられる。自分の課題に対して自分で学び方を考え工夫することについては肯定的解答・否定的解答ともに全国より高い。これらのことから、自己の課題に向き合い自分に合った学びを進めていくことの指導が必要である。また国語の述問題では「図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」問題で無回答率が全国を下回る。算数科データ活用を校内研究の柱とし、問題を発見、解決の見通し、活動後の振り返りを大切に指導を積み重ねたい。

「豊かな心・健やかな体」の現状
体力面において、令和6年度には、ナイスランニング、ボール投げ、立ち幅跳び、リズム縄跳びなど、20分休憩にできる体力づくりに取り組んできた。「新体力テスト」の結果を見ると、種目にもよるが堺市の結果と同程度または、低い結果となっている。これまで縦割り活動を続けており、高学年が低学年を支える文化が根づいている。高学年はよきモデルとなり、同時に自己有用感を高める機会にもつながっている。さらに、約束を守る児童も多く、熱心に粘り強く取り組む児童も多い。一方指示を待つ傾向もあり、自分で判断し、良いと思ったことは進んで取り組む力の育成が必要である。

項目	中項	具体目標	評価項目 (取組、成果・状態) (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	実状:実施状況…2月 学ア:学校アンケート…1月 児(教)育は児童(教師)の肯定的回答	評価方法	評価時期	進捗確認(～12月)		達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価		
総合的な学力	自分で学びを進める子	個別・最適な学び協働的な学び授業改善	【学習内容の定着】 朝の学習で、ドリルパーク等を用いて基礎・基本を定着させたり個々に合わせて学習を進める。また、読書をする習慣を確立する。	ドリルパークを活用し、自分にあった復習を行う。本の借り換えや学習図書を充実させ常に本が手に取れる状況にする。 テーマ・必要に応じ、関連する本を学年書籍として廊下に準備する。		実状	2月				
			●【思考力・判断力・表現力の伸長】 算数科「データ活用」領域の学習を中心に校内研修を進め、統計的な問題解決のよさに気づき、データやその分析結果を生活や学習に活用しようとする。	算数の勉強は好きですか【児育】75%以上 図・表・グラフを使うと考えを交流しやすい【児育】75%以上 図・表・グラフを使う機会を意図的に作る。		学ア 実状	1月 2月				
			★【主体的な学び】(学校群で行う) 単元単位でねらいを明確にもち、問題意識の醸成・見通しを大切に授業づくりを進めることにより、子どもも教師も主体的な学びづくりに取り組む。学校群の取組を進める。	問題をとく時これまでに習った事が使えないか考えている【児育】80%以上 見通しを自分で考え、自分の学びを振り返っている【児育】80%以上 単元単位でねらいをもち「子どもが進める授業」を行う。 中学校群推進のための組織を編成し、部会ごとに取り組む。		学ア 実状	1月 2月				
			【家庭学習】 自主学習ノートに取り組むことにより、興味・関心を広げたり学んだことを深めたりする。自主学習ノートの取り組みを紹介する場を設定する。	全学年で週1回程度自主学習ノートに取り組む。 普段から調べてみたい、なぜだろうと思うことがある【児育】70%以上 自分で計画を立てて勉強していますか【児育】70%		実状 学ア	2月 1月				
			【児童のPCの活用】 さまざまな場面で児童用タブレットを使い、堺市情報能力チェックリストをもとに各学年情報活用能力の伸長を図り、効果的に活用できるようにする。	週3回以上、授業で児童が1日10分以上PCを活用する。 高学年児童は、週1回以上持ち帰りを行う。 堺市情報活用能力チェックリストを元に、各学年で設定されている情報活用能力の取組を実施する。		実状	2月				
			●【カリキュラムマネジメント】 調べたい課題を持ち、さまざまな調査方法で調査し、わかったことや思ったことを発表する活動を行う。 その際、学んだことが生かせるように工夫をする。	生活・総合的な学習の時間が好きですか【児育】80%以上 子どもの問題意識を大切に探究のサイクルを回す。 自分から積極的に英語を使って話してみようと思う【児育】84%以上		学ア 実状	1月 2月				
豊かな心・健やかな体	心身共に逞しい子	体力向上	【体力づくり 持久力・コア向上】 20分休憩の体力づくりを児童が主体となって年間を通して実施し教職員もともに参加する。特に、持久力向上のための取り組みを行う。	体力づくりに進んで参加している【児育】80%以上 外で体を動かすことは好きですか【児育】85%以上		学ア	1月				
			【健康な体づくり】 自分の心身の健康を守るための話を継続的に行い、児童が主体となって健康を守るための活動に取り組む。栄養教諭と連携して各学年で食育の実践を行う。	1年に1回以上、健康診断の機会に健康講話を行う。 栄養教諭と食育を各学年1回以上行う。 食べ物のことや食べ方について知るとは楽しい【児育】80%以上		実状 学ア	2月 1月				
	生活をよりよくしようとする子	安心安全な学校・学級	【いじめ・不登校】 一人ひとりにあった「居場所と出番」のある学級集団をつくる。いじめが起こった際には、いじめ対策基本方針に則り適切に対処する。普段から子どもの話を聞き、不登校防止に取り組む。教育相談を申し込みやすい環境づくりを推進する。	生活をよりよくするアンケートを年3回実施する。 年3回アンケート回答について、全ての子どもの思いを尋ね対応する。 子どもの状況を子ども支援委員会で共有し必要に応じ相談につなぐ。 困った時だれかに相談しやすい【児育】70%		実状 学ア	2月 1月				
			【異学年交流】 全校で縦割り活動を行ったり、清掃活動、校外学習等々、異学年による関わりの機会を増やし、自己有用感を育む。キャリアパスポートを活用し自分のよさに気づけるようにする。	自分にはよいところがある【児育】70%以上 どの学年も異学年交流に取り組む。 キャリアパスポートを工夫する【教育】80%以上		実状 学ア	2月 1月				
			【よりよい生活】 「みそあじ」を合言葉に、履物そろえ・自分からあいさつ・正しい廊下歩行に取り組む。実行委員会や係活動・委員会活動で自分にできることを考え、自分から取り組む。	学校のきまりを守っている【児育】80% 相手の気持ちや場の状況を考え自分から行動している【児育】80% みんながよりよく生活するために行動している【児育】85%		学ア	1月				
	仲間を理解し支え合う子	違いを認め合える仲間づくり	【人権教育】 自国の文化だけでなく他国の文化、自分以外のものの考え方に触れたり、男女平等の取組、自分とは違う考え方に触れたりする機会をもち、自分らしさも大切にし、友だちも大切に。また、マイノリティの意見も大切に。「ふわふわの木」を作成し、ふわふわ言葉が日常的に使われる環境をつくる。	ふわふわ習慣に進んでふわふわ言葉を使っている【児育】80%以上 普段から、ふわふわ言葉をつかっている【児育】80%以上 クラスの友だちや先生など他の人の事をもっと知りたいと思う【児育】80% 自分とは違う考えをうけ入れることができる【児育】70%以上 他の国の文化に触れる機会を年1回以上もつ。 他の国の文化や行事を体験し、異文化のよさを感じる【児育】90%		実状 学ア	2月 1月				
【特別支援教育】 それぞれの個性に気づき、違いを認め合える機会として、支援学級との交流会、啓発授業を行う。			まわりにこまっている人がいる時、自分にできることはないかを考えている【児育】80%以上		学ア	1月					
地域を愛する子	地域協働	【地域を知る】 子どもの思いを大切に学校行事や児童会行事を行う。地域のよさを感じることが出来る機会を大切に。	学校の行事や児童会活動は楽しい【児育】90%以上 この学校・地域が好き【児育】90%以上		学ア	1月					

校長より(年度末)

学校関係者評価から(年度末)